

総合型地域スポーツクラブ育成事業とレクリエーション協会の「揺らぎ」
 ―〇県におけるフィールドワークをもとに―
 谷口勇一(大分大学)

キーワード：総合型地域スポーツクラブ、「揺らぎ」、クラブマネジャー

1. 緒言

現在、全国に 2786 設立されている総合型クラブであるが[文部科学省, 2008], その全国的な普及・振興を主導する機関は, 財団法人日本体育協会(以下, 日体協)であるといえよう。日体協は, 加盟団体である都道府県体育協会との連携・協力関係を中心とした「育成支援事業」を展開してきた。当事業展開は確実に成果をあげ, 現在全国に存在する総合型クラブの大部分が日体協「育成支援事業」に関与したクラブである。しかしながら, 総合型クラブの育成支援事業は, 日体協のみで行われているわけではなく, 財団法人日本レクリエーション協会(以下, 日レク協会)においても, 「創設支援事業」を実施し, なおかつ既存クラブ運営の充実を目的とした「活動支援事業」が行われている。

住民にとって, 新しいスポーツ・レクリエーション活動環境の創出が意図された総合型クラブの育成に, 複数のスポーツ・レクリエーション関係団体の支援がなされようとしている状況は歓迎すべきことである。しかしながら, 総合型クラブの普及・振興にあたり「主導的」立場を確立しつつある日体協に対し, 日レク協会は, いかなるスタンスをもって総合型クラブ育成事業を展開しようとしているのか。そこには, 総合型クラブ育成事業をめぐる日レク協会の「揺らぎ」の存在をみることになりはしないだろうか。

そこで本研究では, 実際の総合型クラブ育成(支援)場面をケーススタディとして取り上げ, 地域レベルでの総合型クラブ育成とレクリエーション協会間に生じている「揺らぎ」の諸相を把握・理解する。その際, 具体的に見出そうとする内容は, 「レクリエーション有資格者が抱く総合型クラブへの関与意向と葛藤」「総合型クラブ育成に対する地域(県)レク協会のスタンスとそこでの葛藤」である。これらの状況認識作業を踏まえ, 最終的には総合型クラブ育成とレクリエーション協会の今後の関係性について言及していきたい。

2. 方法

1) 研究枠組

総合型クラブの設立要件として重要な意味を持つクラブマネジャーの養成は, 2000(平成12)年度から開始されている。当初のクラブマネジャー養成事業は, 文部科学省と日体協, 日レク協会等で構成された総合型地域スポーツクラブ育成協議会によって実施されてきた。その後, 2006(平成18)年度からは, 日体協による主導的なクラブマネジャー養成制度が確立され, 公認クラブマネジャーならびにアシスタントマネジャー資格の誕生をみるようになった。

日レク協会においては, 総合型クラブ育成事業に当初から関与してきたにもかかわらず, 「主導」的な役割を日体協に委ねたこともあって, 以降の具体的な総合型クラブ育成事業展開のビジョンを確立できない状況にあると推察できる。しかしながら, 上記したように, 日レク協会においては, 独自の総合型クラブ育成事業を展開し, 関係団体に対する協力要請―レク活動を中心とした総合型クラブ展開―を行っている状況にある。

日レク協会の総合型クラブ育成に関する動向は、実際に住民との接点を有している都道府県レク協会およびレク有資格者に対し、以下のような葛藤が生じさせると予想できる。すなわち、「都道府県体協を中心として展開されている総合型クラブ育成事業展開との棲み分け、もしくは協働関係はいかに成立するのか」という、支援団体間のコンフリクト（対立・葛藤）である。

葛藤の解消には、そのための「動き」が不可欠である。そこで本研究では、レク関係機関・関係者が総合型クラブ育成事業に関わり合いをもって生じている「スタンス、関係性や価値観などに関する葛藤」の克服プロセスを「揺らぎ」[谷口, 2008・尾崎, 2005]として捉えていくことにする。

2) 研究方法

本研究では、質問紙調査とインタビュー調査を実施した。質問紙調査は2007年〇県レクリエーション大会時にレク有資格者を対象に実施し、分析対象者数56部であった。インタビュー調査は2008年8月～9月に行い、対象者は〇県レク協会事務局職員ならびに同協会生涯スポーツ部関係者の2名であった。

3. 結果の一部

まず、〇県内レク有資格者を対象とした調査結果をみる。総合型クラブに対する認知度は、「大変知っている」48.1%、「まあ知っている」38.5%であったものの、実際に総合型クラブと何らかの関わり合いがある者は34.5%に過ぎないことがわかった。しかしながら、『総合型クラブにおいて、レク有資格者が果たす役割を感じますか』と訊ねたところ、「おおいに感じている」46.4%、「まあ感じている」42.9%となり、総合型クラブへの積極的関与が強く志向されていることが明らかとなった。具体的な役割意識の内容としては、「様々な年齢に対する身体活動の提供」「住民の“楽しみ”“いきがい”活動を提供する」等が高く、逆にクラブマネジメントの中心的業務である「財務管理」「プログラムの企画・立案」等に対する意識は低いことがわかった。

〇県レク協会事務局職員ならびに同協会生涯スポーツ部関係者に対するインタビュー調査は、独自に作成したインタビューマニュアルに基づく半構造化面接法を用いて行った。現在、回答内容に関する考察中であるが、特徴的な内容としては、『レク指導者の中でも総合型クラブに興味がある方はたくさんいるんです。でも、県内での総合型クラブ育成は体協と広域センターが中心ですから、レク協会として具体的に支援事業を起こす必要もないかなと思っています』『レク協会として総合型クラブを作った場合、設立後は、このクラブは総合型クラブですというお墨付きもらえるのでしょうか？いまは体協関連のクラブでないと公認されていないような・・・。』等であった。

当日は上記調査結果から、より詳細な考察内容を報告したい。

【文 献】

谷口勇一「総合型地域スポーツクラブ政策とスポーツ行政の揺らぎ構造」三本松正敏・西村秀樹編『変わりゆく日本のスポーツ』世界思想社, 2008, pp.112-128.

尾崎新「ケア・ワークとはなにかー現場で「ゆらぐ」ことの意味」保育学研究 43 (2), 2005, p.160.